

ペットボトルのキャップを利用したモザイク画の制作

区民の皆さんの協力で収集したペットボトルキャップの数は20万個を超え、その一部を使ってモザイク画を制作しました。設計・デザインは北海道工業大学の皆さんに協力を依頼し、JR手稲駅自由通路「あいくる」で11月6日(金)に完成式が行われ、11月20日(金)まで展示されました。
※現在は北海道工業大学で展示されています。



▲高さ2.7m、幅9m！着色することなくすべてキャップの原色を使いました。使用したキャップは約2万個



▲制作過程を説明する北海道工業大学の伊藤千恵さん



▲北海道工業大学祭ではモザイク画の制作に子どもたちも参加

事業班ではモザイク画の制作やキャラクター作りを担当しました。

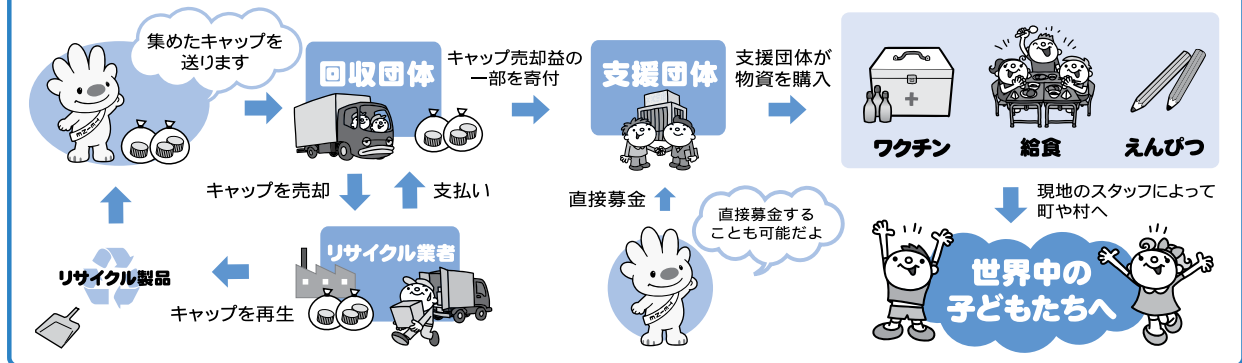
おかしんち 岡田信一事業班長▶



エコキャップ運動

モザイク画に利用したものも含め、キャップはイオン北海道(株) (イオンスーパーセンター手稲山口店)へ寄贈しました。キャップのリサイクルによる収益金は「セーブ・ザ・チルドレン」などの国際協力団体へ寄付され、ワクチン、給食、学校教材となって世界の子どもの元に届けられます。

エコキャップ運動の仕組み



※この図はイメージであり、実際の手続きを忠実に再現したものではありません。



手稲区マスコットキャラクター ていぬ

キャラクター選考の過程

広報さっぽろ等でデザインを公募し、全国から221点の応募がありました。学識経験者、地域住民の方々で構成される選考委員会で検討した結果、かわいくて親しみがあり、多くの人に愛されるキャラクターになるよう期待を込めてアパレル会社勤務で区内在住の江幡由衣さんのデザインに決定しました。



「ていぬ」原作者の
えはたゆい
江幡由衣さん

自分が住んでいる手稲で人に温かさを感じさせる愛くるしい動物がいいなと考え、犬を思い付きました。

名前の決定

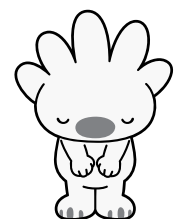
キャラクターにふさわしい名前を募集し、「ていぬ」に決定しました。手稲区はお年寄りから子どもまで平和に暖かく暮らすまちなので、平和とぬくもりの象徴として「手稲」の「て(手)」と「いぬ(犬)」を合わせて「ていぬ」になりました。

区内で活動開始!

現在、手稲区内で宣伝活動を始めました。12月は、手稲本町商店街と一緒に、クーポン付フリーペーパー「手稲本町タウンペーパー2009冬号」を作成し、商店街店舗や手稲区役所などで配布しています(部数に限りがあります)。今後は成人式などでも登場します。



▲「ていぬ」のきぐるみもデビュー!



これから愛されるキャラクターを目指してがんばります。どうぞよろしくお祈りします!